

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
広島工業大学専門学校		昭和59年1月14日		佐藤 隆 吉		〒 733-8533 (住所) 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話) 082-295-5111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人鶴学園		昭和32年11月27日		鶴 衛		〒 731-5193 (住所) 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話) 082-921-3121		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		音響・映像メディア学科		平成26(2014)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的	音響・映像・照明・イベント関係業務に従事するための知識と技術を身に付ける。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(取得可能な資格)3級技能検定 舞台機構調整(音響機構調整作業)、映像音響処理技術者資格認定試験 等 (中途退学の現状)中途退学者 1名 中退率 2.1%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,984 単位時間	1,408 単位時間	0 単位時間	1,216 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	年		単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
80 人	47 人		0 人		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		22 人					
	■就職希望者数(D)		20 人					
	■就職者数(E)		20 人					
	■地元就職者数(F)		11 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		55 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	自己開拓 2名							
(令和 6 年度卒業者にに関する 令和7年5月1日 時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報								
株式会社オーアンド・オー、(有)中国映像センター、(株)シグマコミュニケーションズ、ニイダ(株)、(株)トラストネットワーク、TSSプロダクション、(株)たけはらケーブルネット(株)サウンドシーク株式会社SHINOMOTO-SE、株式会社Cuevo等								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無し					
※有の場合、例えば以下について任意記載								
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.hitp.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				2,624 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				128 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				1,216 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				64 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				64 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数				単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位				
うち必修授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人			
	計				3 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
音響・映像・照明・イベント等の関係業務に従事するための知識並びに技術を有する技術者を育成するため、企業等と連携し、業界のニーズを反映させた教育課程編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。
当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。
①教育課程の編成及び実施
②教育計画に関する事項
③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

企業関係者委員 令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐 藤 隆 吉	校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
瀧 口 啓 倫	教頭	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
竹 田 睦	教育部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
林 哲 也	音響・映像メディア学科 学科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
木 村 安 曇	音響・映像メディア学科 教員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
境 弘 之	音響・映像メディア学科 教員	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

企業関係者委員 令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
吉 川 滋	公益財団法人日本照明家協会中国支部 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
山 田 雅 宏	株式会社 SHINOMOTO-SE 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 6月、翌年2月
(開催日時(実績))
第1回 令和6年 7月10日 15:00～17:00(オンライン会議)
第2回 令和7年 2月17日 15:00～17:00(オンライン会議)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会等の意見	学科の対応
テールゲート教育の実施	夏季休業中を利用し、学生並びに教員を対象とした「テールゲート」の講習会を実施した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

音響・映像・照明等の企業において即戦力となる技術者を育成するため、高度な技術を持った講師（スタッフ）の派遣、器材等の提供が可能な企業等を選定している。また、派遣した講師による実践的指導・学習評価が可能な企業等を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

コンサートやテレビ番組を想定し、音響、映像、照明、制作の各部門に学生をグループ分けし、連携企業の指導の下で学生自らが企画・制作・運営を行う総合的かつ実践的な実習を展開している。連携企業の講師からは、まず企画・制作や心構えなどについて学び、実習後に実習全体の取り組み姿勢や積極性、協調性、専門的な知識・技術が活かされているかなど、各項目について学生一人ひとりの評価をいただき、実習成果に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
コンサート実習Ⅰ	授業内容のまとめとして実践的なコンサート実習（音響・映像・照明・制作）を実施する。	・株式会社Moveup ・有限会社ワークス
コンサート実習Ⅱ	授業内容のまとめとして実践的なコンサート実習（音響・映像・照明・制作）を実施する。	・株式会社Moveup ・有限会社ワークス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

- ①企業が開催する研修会
- ②協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③業界団体主催の研修会

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「テールゲート」の講習会	連携企業等:	全国舞台テレビ照明事業 協同組合、ワークス
期間:	令和6年8月28日	対象:	教員、学生
内容	安全教育の一環として運搬車に装備されているテールゲートの安全な取扱いについて講習を受ける		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	夏季教職員研修会「学生とのより良いコミュニケーションの在り方について」	連携企業等:	元広島国際大学 教授 久次 弘子
期間:	令和6年8月22日	対象:	教員
内容	学生とのコミュニケーションについて、研修を行い、適切な学生指導の支援につなげる。		
研修名:	令和6年度広島県専修学校各種学校連盟 教職員研修会	連携企業等:	広島県専修学校各種学校連盟
期間:	令和6年11月6日	対象:	教員
内容	ペップトークおよびアンガーマネジメントの研修に参加し、学生指導拡充に向けた取組に資する研修会に参加した。		
研修名:	情報セキュリティ研修	連携企業等:	鶴学園
期間:	令和7年2月6日	対象:	教員
内容	学校における情報セキュリティの重要性と仕組みなどを理解し、日常業務のセキュリティ向上を図る。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	レーザー光線取扱い、足場組立の講習、フルハーネス型 墜落制止用器具特別教育	連携企業等:	全国舞台テレビ照明 事業協同組合等
期間:	令和7年	対象:	教員、学生
内容	安全教育の一環として、舞台照明関連のレーザー光線の取扱い、足場に関する知識とフルハーネス型墜落制止用器具特別教育を受ける。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「学生のやる気を引き出す言葉の力 ～ペップトーク～」 (仮題)	連携企業等:	K・mind 代表 松永 佳世子
期間:	令和7年8月21日	対象:	教員
内容	学生のパフォーマンスを引き出すコミュニケーション方法について理解を深め、学生指導の支援につなげる。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動の評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。
当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

評価結果並びに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

令和7年3月31日現在

名 前	役職・所属	職責等
佐 藤 隆 吉	校長	学校関係者評価委員会委員長
瀧 口 啓 倫	教頭	委員
竹 田 睦	教育部長	委員

企業関係者委員

令和7年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
山 口 健 治	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	高校
松 尾 達 憲	一般社団法人 広島県情報産業協会	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	業界団体
吉 川 滋	公益社団法人 日本照明家協会中国支部	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	業界団体
濱 井 保 徳	テンパール工業株式会社	令和5年7月1日～令和7年3月31日（2年）	企業
宮 内 秀 実	河井建設工業株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業 地域
大 畠 晋 也	広島工業大学専門学校同窓会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://www.hitp.ac.jp/>

公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアを通じて提供しています。

URL: http://www.hitp.ac.jp/	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

授業科目等の概要

(工業専門課程音響・映像メディア学科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			生き方講座Ⅰ	社会人並びに職業人として望ましい職業観・就労観を育成する。また、就職活動に関する知識を身に付けさせる。	1前	32	1			○	○		○		
2	○			生き方講座Ⅱ	社会人並びに職業人として望ましい職業観・就労観を育成する。また、就職活動に関する知識を身に付けさせる。	1後	32	1			○	○		○		
3	○			生き方講座Ⅲ	社会人並びに職業人として望ましい職業観・就労観を育成する。また、就職活動に関する知識を身に付けさせる。	2前	32	1			○	○		○		
4	○			生き方講座Ⅳ	社会人並びに職業人として望ましい職業観・就労観を育成する。また、就職活動に関する知識を身に付けさせる。	2後	32	1			○	○		○		
5	○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1前	32	2	○			○			○	
6	○			コンピュータ実習Ⅰ	ビジネス活動に必要となるワープロ、表計算、プレゼンテーションの各ツールの基礎及び活用について学ぶ。	1前	32	1			○	○		○		
7	○			コンピュータ実習Ⅱ	ビジネス活動に必要となるワープロ、表計算、プレゼンテーションの各ツールの基礎及び活用について学ぶ。	1後	32	1			○	○		○		
8	○			コミュニケーション	自己のコミュニケーション能力を多面的に分析するとともに日常的な会話やビジネスシーンなどいろいろなコミュニケーション場面を設定し、それぞれの考え方や対処方法を体験的に学ぶ。	1前	32	2	○			○		○		
9	○			プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション資料を作成することができ、それを用いて説得力のあるプレゼンテーションを行えるように実践的に学ぶ。	1後	32	2	○			○		○		
10		○		ビジネスマナー	実社会で必要な言葉使い、挨拶、行動、考え方などについてシミュレーションを通じて体験的に学習する。	2後	32	2	○			○			○	
11	○			音響理論Ⅰ	音声の特性や收音技術に関する基礎技術理論の学習を行う。	1前	32	2	○			○		○		
12	○			音響理論Ⅱ	音声の特性や收音技術に関する基礎技術理論の学習を行う。	1後	32	2	○			○		○		

13		○		音響理論Ⅲ	放送業務に関わる上で必要な機器の知識と活用方法を学ばせ、音響技術者の育成を目指す。	2 前	32	2	○			○		○		
14		○		音響理論Ⅳ	放送業務に関わる上で必要な機器の知識と活用方法を学ばせ、音響技術者の育成を目指す。	2 後	32	2	○			○		○		
15	○			映像理論Ⅰ	映像信号の構成、動画の仕組み、実際の映像制作に関する基礎技術理論の学習を行う。	1 前	32	2	○			○		○		
16	○			映像理論Ⅱ	映像信号の構成、動画の仕組み、実際の映像制作に関する基礎技術理論の学習を行う。	1 後	32	2	○			○		○		
17		○		映像理論Ⅲ	映像コンテンツを制作する上で必要な機器の知識と活用方法を学ばせ、映像制作、映像管理技術者の育成を目指す。	2 前	32	2	○			○		○		
18		○		映像理論Ⅳ	映像コンテンツを制作する上で必要な機器の知識と活用方法を学ばせ、映像制作、映像管理技術者の育成を目指す。	2 後	32	2	○			○		○		
19	○			音響実習Ⅰ	PA技術、録音技術の基礎を、実体験を通じて学習させる。	1 前	96	4	△			○	○		○	
20	○			音響実習Ⅱ	PA技術、録音技術の基礎を、実体験を通じて学習させる。	1 後	96	4	△			○	○		○	
21		○		音響実習Ⅲ	音響実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術をベースに、本格的なレコーディング作品の制作や業界で通じる高度な専門技術を学習する。	2 前	96	4	△			○	○		○	
22		○		音響実習Ⅳ	音響実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術をベースに、本格的なレコーディング作品の制作や業界で通じる高度な専門技術を学習する。	2 後	96	4	△			○	○		○	
23	○			映像実習Ⅰ	撮影技術、編集技術、照明技術、収録技術の基礎を体験的に学習させる。	1 前	96	4	△			○	○		○	
24	○			映像実習Ⅱ	撮影技術、編集技術、照明技術、収録技術の基礎を体験的に学習させる。	1 後	96	4	△			○	○		○	
25		○		映像実習Ⅲ	映像実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術をベースに、本格的な作品制作や業界で通じる高度な専門技術を学習する。	2 前	96	4	△			○	○		○	
26		○		映像実習Ⅳ	映像実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術をベースに、本格的な作品制作や業界で通じる高度な専門技術を学習する。	2 後	96	4	△			○	○		○	
27	○			デジタルサウンドⅠ	電子音楽機器の技術理論とオリジナル作品の制作手順を学習する。	1 前	32	1				○	○		○	
28	○			デジタルサウンドⅡ	デジタルサウンドⅠで習得した技術と基礎をベースに本格的なサウンド制作を行う。	1 後	32	1				○	○		○	

29	○		ビジュアル ツールⅠ	コンピュータソフト（フォトショップ、イラストレーター）を活用して、画像処理、画像加工、デザイン画作成を学習する。	1 前	32	1			○	○		○		
30	○		ビジュアル ツールⅡ	コンピュータソフト（フォトショップ、イラストレーター）を活用して、画像処理、画像加工、デザイン画作成を学習する。	1 後	32	1			○	○		○		
31	○		照明技法Ⅰ	テレビ番組照明、映画照明、コンサート照明などにおける照明機器の扱いや照明を用いての表現など照明について幅広く学ぶ。	1 前	32	2	○			○			○	
32	○		照明技法Ⅱ	テレビ番組照明、映画照明、コンサート照明などにおける照明機器の扱いや照明を用いての表現など照明について幅広く学ぶ。	1 後	32	2	○			○			○	
33	○		色彩学Ⅰ	色の基本を知ることによって色を操作出来る力をつける。また、色の心理の知識を深め色が及ぼす作用を映像に結びつけ、効果的な作品づくりに役立てる。	1 前	32	2	○			○			○	
34	○		色彩学Ⅱ	色の基本を知ることによって色を操作出来る力をつける。また、色の心理の知識を深め色が及ぼす作用を映像に結びつけ、効果的な作品づくりに役立てる。	1 後	32	2	○			○			○	
35	○		CGⅠ	2D、3Dグラフィックスの基礎理論と作成技術を学習する。	1 前	32	2	○			○		○		
36	○		CGⅡ	2D、3Dグラフィックスの基礎理論と作成技術を学習する。CG作成ソフトを使用し、モデリングからアニメーション、ムービーファイルの作成までを実践的に学ぶ。	1 後	32	2	○			○		○		
37	○		アナウンス講座	アナウンサーの養成講座。明瞭な発声方法や正しい言葉使いなどアナウンス技術を実践的に学ぶ。	1 後	32	2	○			○			○	
38		○	映像演出Ⅰ	良質な映像作品や番組制作に必要なものは技術だけではなく、的確な表現や正しい時事の扱いが必要になることを本学習で理解させる。映像ディレクターの基本を学ぶ。	2 前	32	2	○			○			○	
39		○	映像演出Ⅱ	良質な映像作品や番組制作に必要なものは技術だけではなく、的確な表現や正しい時事の扱いが必要になることを本学習で理解させる。映像ディレクターの基本を学ぶ。	2 後	32	2	○			○			○	
40		○	DAWⅠ	音声編集ソフトを使用し、音声データの編集、加工、音質調整等、実践的な実習を行う。	2 前	32	1			○	○			○	
41		○	DAWⅡ	音声編集ソフトを使用し、音声データの編集、加工、音質調整等、実践的な実習を行う。	2 後	32	1			○	○			○	
42		○	デジタルメディアⅠ	ネットワークコンテンツの発信方法を学び、Webページの作成、映像コンテンツの配信、インターネット放送など通じて、新しい情報発信方法を体験的に学ぶ。	2 前	32	1			○	○		○		
43		○	デジタルメディアⅡ	ネットワークコンテンツの発信方法を学び、Webページの作成、映像コンテンツの配信、インターネット放送など通じて、新しい情報発信方法を体験的に学ぶ。	2 後	32	1			○	○		○		

44		○	イベント企画Ⅰ	企業のPRイベントから、音楽家のコンサートまで幅広く、イベントの企画から予算管理、交渉、実際の運用までを学習する。	2前	32	2	○			○		○		
45		○	イベント企画Ⅱ	企業のPRイベントから、音楽家のコンサートまで幅広く、イベントの企画から予算管理、交渉、実際の運用までを学習する。	2後	32	2	○			○		○		
46		○	PA技術	コンサートエンジニアに必要なPA機器の取り扱い方や運用方法など、それらの理論と技術を体系的に学習する。	2前	32	2	○			○			○	
47		○	レコーディング技術	レコーディング技術の基礎的な知識と、レコーディングを行なう音響機器の機能、構造操作技術を学習する。	2後	32	2	○			○			○	
48		○	CM制作	テレビCMの意義や必要性を学習することで、実際の制作課程やCMの目的について理解させることを目標とする。	2前	32	2	○			○			○	
49		○	VP制作	ブライダル映像、イベント記録映像、商品紹介映像などの放送番組以外の映像コンテンツの活用方法を、作品制作を通じて学習させる。	2後	32	2	○			○			○	
50		○	ステージ照明	舞台照明のためのライティング技法を学習し、ステージ制作の一端を担う照明の基礎知識と技術を養成する。	2前	32	2	○			○			○	
51		○	ステージ制作	ンサート・イベントなどにおける制作の基本的な知識を学習。舞台、ステージ制作者に必要な知識・技術を養成する。	2前	32	2	○			○			○	
52		○	演技・表現技法	演劇などの表現方法を学ぶことで、音響・映像制作者としての感性を磨くことを目標とする。また、実社会で対人関係を良好にするために、身体や言語を用いて感情を表現しコントロールする術も学習させる。	2後	32	2	○			○			○	
53		○	ラジオ番組制作Ⅰ	ラジオ番組の企画立案・制作・出演・編集から完パケまでを行い、ラジオ放送することにより、現在のラジオ番組制作の流れ・手法等を学ぶ。	2前	64	3	△			○	○		○	○
54		○	ラジオ番組制作Ⅱ	ラジオ番組の企画立案・制作・出演・編集から完パケまでを行い、ラジオ放送することにより、現在のラジオ番組制作の流れ・手法等を学ぶ。	2後	64	3	△			○	○		○	○
55		○	ビデオコンテンツ	各種映像コンペティションに作品を出品することを目的とした実習。	2前	64	3	△			○	○		○	
56		○	映像卒業制作	映像技術、理論を学習した成果をまとめる卒業制作。	2後	64	3	△			○	○		○	
57		○	音響映像資格対策講座	映像音響処理技術者資格認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験、プロツールズ技術認定試験等、音響、映像に関する資格・検定試験の合格を目指し、模擬問題を用いて対策講座を行う。	2前	32	2	○			○			○	
58		○	メディア応用技術	映像、音声、照明に関する情報の記録、伝達、保管に用いる装置や仕組みなどについて学ぶ。	2後	32	2	○			○			○	

59	○		コンサート実習Ⅰ	公共施設であるコンサートホールを利用し、P A 技術、レコーディング技術、照明技術、映像収録技術、舞台制作技術を実践的に学習させる。	1 前	32	1			○	○	○	○	○	○
60	○		コンサート実習Ⅱ	公共施設であるコンサートホールを利用し、P A 技術、レコーディング技術、照明技術、映像収録技術、舞台制作技術を実践的に学習させる。	2 前	32	1			○	○	○	○	○	○
61		○	インターンシップ	連携企業においてインターンシップを行う。	1 後	64	2			○	○	○	○	○	○
合計				61 科目			2624 単位時間			126 単位					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の修業年限以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。